

日本植物学会企画シンポジウム 植物科学最前線 「分子でみる光合成生物の多様性・生態・環境」

オーガナイザー

宮下 英明・瀬戸口 浩彰
京都大学大学院人間・環境学研究科
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

上井 進也
新潟大学理学部自然環境科学科
〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050

本特集は、日本植物学会第74回大会のシンポジウム「分子でみる光合成生物の多様性・生態・環境」の内容を総説にして取りまとめたものです。

このシンポジウムは最近の植物科学研究の手法、現状、今後の展開について発表・討議する総説的・教育的なシンポジウムとして日本植物学会広報委員会によって企画されました。DNA配列を利用する分子生物学的手法は、光合成生物の多様性、分布、生態、進化研究にますます欠かせないツールとなっています。さらに、シアノバクテリア、藻類、陸上植物ゲノム情報の充実は、環境適応に関する遺伝子の解析やその機構解明を容易にし、光合成生物の多様化・進化研究の重要な手がかりとなっています。そこでシンポジウムの企画にあたり「分子・多様性・生態・進化・環境」の5つのキーワードを設定しました。これらのキーワードを基に、植物学会会員に加え、微生物生態学、水産微生物学、生物地理学、進化学など様々な関連学問分野において、シアノバクテリア、藻類、陸上植物の分子生態・進化・多様性研究を勢力的に行っている6名の若手研究者を精選し講演をお願いいたしました。

本特集では、演者の方々の最新研究成果や、その手法、研究現状などがとりまとめられています。この特集を通して、光合成生物分野における「分子・多様性・生態・進化・環境」研究に関する現状の理解ならびに皆様のご研究の更なる発展の一助となれば幸いです。